

国語科

教科の目標等

個性豊かな教師陣がそれぞれに味わい深い授業になるように努めています。共通の目標は、さまざまな作品を通じて「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」を養ってほしいということです。また、多面的思考力や多様性を受け入れる力を身につけられるように、多様な教材や授業方法を用い、工夫した授業をおこなっています。

主に一年次では、語彙力、文法力を核とした基礎力を養い、二、三年次ではそれを土台として深く味わう力、自由に表現する力を養うことを指導の重点としています。三年間の授業を通じて、言語感覚を磨き上げ、言語文化に対する関心を深めることで心情を豊かにしてほしいと願っています。

本校での取組・特徴①(生徒文集『あゆみ』)

国語科では、毎年一冊の生徒文集を発行しています。全生徒約九百六十名の中から優秀な

作品約五十編を選び一冊の本に仕上げます。各生徒はジャンルもタイトルも枚数も自由に選べます。それを大きく三つのジャンル「一般作文」「読書感想文」「創作」に分けて編集し製本します。中でも「創作」は原稿用紙二十枚を超えるような大作も少なくありません。内に秘めた「書かずにはいられない想い」に言葉を与え形にするという喜びを、それは伝えていきます。

個性豊かな国語科の教師陣が誇りにしているこの「あゆみ」と名付けられた生徒文集は、五十年以上の歴史を生徒とともにあゆんできました。そしてまた、これからもあゆみつづけます。



本校での取組・特徴②(文学作品の重視)

国語科では特に、文学作品の授業に力を入れています。定番教材と呼ばれるような作品については、作品そのものがもつ魅力を十分に味わえるように、それぞれの担当教員が工夫をした授業を行っています。

たとえば、『羅生門』や『こころ』といった作品を生徒が自分たちの力で読み解き、それを他の生徒に対して解説する授業もあります。また、対立する文学思潮に属していた二人の作家の作品を比較して読む授業を行ったり、同じ作家の二つの作品を比較して感想レポートを書いたりという、比較研究のような授業なども行っています。三年生の選択科目では、樋口一葉の『たけくらべ』など、より複雑で難解な作品に取り組む科目や、エッセイを書いて相互に評価する表現的な内容のものもあります。

文学を通してしか得られない様々な力を身につけて欲しい。多くの時代を超えて読み継がれてきた名作を、これからの時代を担う生徒たちも、自分の力で読み、さらに受け継いでいって欲しい。我々国語科教師陣は、そのような思いを胸に、生徒の心に残る授業となるよう取り組んでいます。